

平成20年度（2008年度）事業計画（案）

財団法人 日本水泳連盟

昨年の世相を漢字ひとつで表すものに「偽」が選ばれたのは、まだ記憶にあると思いますが、二位以下に「食」「嘘」「疑」「謝」が挙げられたことを見ると、その理由が頷ける情勢であったと思います。取り分け日本人の「心」の荒廃に多くの人達が心を痛め侘しさを感じたことでしょう。今年は四年に一度の“スポーツの祭典”オリンピックイヤーです。是非、北京オリンピックでの日本選手達の活躍によって、人々に夢と希望を与え世の中を明るくしなければならぬと願わずにはいられません。

さて、平成19(2007)年度の当連盟事業は大半を終え、余すところ二三の大会を残しておりますが、引続き順調に終結する見込みであります。ここに改めて、各加盟団体をはじめ関係各位のご支援ご協力に対しまして、心から厚くお礼申し上げます次第であります。

総合的に強化面を総括しますと、オリンピックの前年として課題を抱えつつも「北京に繋がる確かな手応えを得た」と思っております。当面の課題は、肝心な時に“如何にベストを出せるか”そのパワーをどうやって身につけるかにあると思います。

競泳は、年度始めの4月にオリンピック代表の選考を兼ねた日本選手権大会が東京・辰巳で開催されます。この試練をクリアした代表選手が、6月のジャパンオープン(辰巳)を経て、8月の北京で真価を問われるわけであります。また、次代を担うジュニア陣も7月のFINAユース世界選手権大会(メキシコ)や、翌年1月のジュニアパンパシフィック大会(グアム)等での大きな躍進を期待しています。シンクローはすでに代表に選ばれた“新生ニッポン”が、まず4月に北京で行われるオリンピック枠を獲得し、8月の本番に臨みます。国内であらゆる角度からじっくり力をつけて、過去6回のオリンピック連続メダル獲得記録をさらに伸張して欲しいものです。飛込については、今年目標は、何と云っても“オリンピックでの初のメダル獲得”にあります。昨年あと一足の難しさ、くやしさは充分味わった筈です。是非「千載一遇」のチャンスを実らせたいものです。水球は、北京オリンピックの出場を失したかわりに、次のロンドン対策にいち早く取り組めるといふ前向きな姿勢で、関係者が一丸となって邁進して欲しいと思っております。新たに強国クロアチアからサブリティチ氏を迎え指導を受けますが、その成果を6月に東京で開催するFINAワールドリーグアジアオセアニアラウンドで発揮し、スーパーファイナルへ進出することを期待しています。

北京オリンピックで戦う“水泳ニッポン”の代表選手達は、“意気衝天”「意気天を衝く」気概をもって臨んで欲しいものであります。

競技運営事業については、前述のFINAワールドリーグ予選ラウンドの開催と来期日本開催を決定しているアジアエージグループ選手権大会、さらに来年1月グアムで開催されるジュニアパンパシフィック大会の主管について、その対応を進めなければなりません。その他の事業におきましても、課題は山積しておりますが、現在各部門の責任者と話し合いを重ね、来期の計画に折り込んで総力を結集して取り組む所存であります。加盟団体をはじめ関係各位の皆様には、引続き一層のご理解とご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成20年2月17日

会長 林 利博

国際競技大会参加予定一覧

(注) 印は主要競技大会

種目	競 技 会	2008年度	2009年度	2010年度	2011年
競 泳	オリンピック大会	8月			
	世界選手権大会		7月		7月
	アジア大会				
	ユニバーシアード大会				
	パンパシフィック大会			8月	
	アジア選手権大会				
	東アジア大会				
	短水路世界選手権大会	4月			
	ワールドカップ大会	11月			
	ユースオリンピック大会				
FINA世界ユース選手権大会	7月				
豪州A G大会					
ジュニアパンパシフィック選手権大会	1月				
ユース・ヨーロッパグランプリサーキット大会	6月				
ジュニア・アメリカ遠征					
アジアA G大会					
地域代表海外派遣(シンガポール)	2月				
飛 込	オリンピック大会	8月			
	世界選手権大会		7月		7月
	アジア大会				
	ユニバーシアード大会				
	FINAワールドカップ				
	アジア選手権大会				
	東アジア大会				
	カナダU・S国際グランプリ大会				
	アジアA G大会				
	ジュニア世界選手権大会				
水 球	オリンピック大会				
	世界選手権大会		7月		7月
	世界選手権アジア予選				
	アジア大会				
	ユニバーシアード大会				
	アジア選手権大会				
	FINAワールドリーグ				
	アジアA G大会				
	ユース海外派遣				
	ジュニア世界選手権大会				
シ ク 口	オリンピック大会	8月			
	世界選手権大会		7月		7月
	アジア大会				
	アジア選手権大会				
	東アジア大会				
	オリンピック大会予選会	4月			
	ワールドカップ大会				
	ローマオープン大会				
	スイスオープン大会				
	FINAワールドトロフィ -				
ジュニア世界選手権大会	6月				
アメリカンカップジュニア大会					
アジアA G大会					
ジャーマンオープン					

1. JOC 事業

第29回オリンピック競技大会

期間・場所	8月8日～24日	中国・北京
競技種目・日程		
(イ) 競泳	8月9日～17日	
(ロ) 飛込	8月10日～23日	
(ハ) シンクロ	8月18日～23日	
選手団編成		
選手選考		
(イ) 競泳	4月15日～20日	日本選手権大会 東京辰巳国際水泳場
(ロ) 飛込	2月19日～25日	F I N A 飛込ワールドカップ 中国・北京
(ハ) シンクロ	平成19年12月16日	オリンピック選手選考会 J I S S
合宿計画		
(イ) 競泳	4月21日～26日 5月29日～31日	J I S S
(ロ) 飛込	未定	
(ハ) シンクロ	未定	

2. 特別事業

(1) ジュニアパンパシフィック選手権大会2009

期間・場所	1月 8日～11日	グアム・レオパレスリゾート
競技種目・日程		
競泳	1月 8日～11日	
選手選考		
競泳	夏季ジュニアオリンピック大会	
合宿計画		
競泳	未定	

(2) F I N A 男子水球ワールドリーグ：アジア・オセアニアラウンド

期間・場所		
競技種目・日程		
水球	5月26日～6月 1日	東京・東京体育館屋内プール
選手団編成		
選手選考	3月15日・16日	国立スポーツ科学センター
合宿計画	3月10日～4月8日	国立スポーツ科学センター

3. 競技力向上事業

(1) 競 泳

競泳委員長 上野 広治

平成20年度上期事業の最主要国際大会は、4年に1度の北京オリンピックである。8月8日開会式翌日の9日から17日までの9日間の競技日程である。何人が選考され代表選手になるか分からないが、4月の日本選手権後、再度戦力分析し強化計画を再検討しながら万全を尽くす所存である。チーム編成によってはベテランのオリンピック経験者・未経験者・リレーメンバーなどグループ化し、指導は所属で本番に備える予定である。オリンピック代表を逸した若手有望選手(ユース代表)の強化については、サンタクララ国際大会に派遣し、レベルアップを図るとともに国際経験を積ませ、将来に備えることにしている。

平成20年度下期事業はワールドカップ大会に新旧のトップクラス選手を派遣する。また、オリンピック強化合宿を12月・2月に計2回実施する。世界選手権2009ローマ大会に向けてはトップクラスのレベルアップと選手層を厚くすることを目的として行う。

ジュニア強化(高校生及び中学生)の国際大会派遣は、今回初派遣となるFINAユース世界選手権(メキシコ)に対して6月のジャパンオープンで32名程度選考する方向である。チーム編成はリレー6種目と個人決勝進出を基準に派遣する。下期は、第3回ジュニア・パンパシフィック大会(グアム)に対して8月夏季ジュニアオリンピック大会で28名程度選考し、強豪豪州・米国に対抗できるチームを派遣できるようレベルアップを図ることを目的に強化に努める。うまくこの2大会を北京オリンピック終了後の選手交代に結び付けたい。地域代表海外国際大会は現状の西東の隔年遠征(ニュージーランド25名)から毎年1ブロック4名、計40名遠征(シンガポール)に変更して地域の活性化をさらに強化する。また、国内強化合宿はオリンピック準強化合宿(中央)とジュニアブロック合宿(地域)を実施する。さらに次年度から小学生優秀選手の強化合宿も実施する。

北京オリンピックは、アテネ大会の好結果と比較されるのは当然であり、競泳ニッポンの真価が問われることになるので、失敗のないよう覚悟を決めて臨む所存である。下期は、北京後の足踏み状態のないよう2012年ロンドンオリンピックを念頭に置き、全ての事業に効果が上がるよう諸計画を実施してゆく所存である。

国際競技会

(1) FINA短水路世界選手権	4月	イギリス・マンチスター
(2) サンタクララ国際大会	5月	アメリカ・サンタクララ
(3) ヨーロッパグランプリサーキット	6月	ヨーロッパ
(4) FINAユース世界選手権	7月	メキシコ・モントレレー
(5) ワールドカップ大会	11月	
(6) オーストラリアオリンピックフェスティバル	1月	豪州・シドニー
(7) ジュニア地域代表国際大会	2月	シンガポール

強化トレーニング

- | | | |
|---------------------|--------|----------|
| (1) 海外合宿 | | |
| (2) オリンピック競技会国内合宿 | | |
| (3) オリンピック強化選手合宿 | 12月・2月 | グアム・JISS |
| (4) 準オリンピック強化合宿 | 12月 | 鈴鹿・富士 |
| (5) 地域合宿 | 12月 | 各ブロック担当県 |
| (6) エリート小学生合宿 | 1月 | JISS |

コーチ派遣

- | | | |
|---------------|----|------|
| (1) 全米選手権 | 7月 | アメリカ |
| (2) ASCA 会議 | 9月 | アメリカ |

企画、研修及び講習会

- | | | |
|-------------------------|-----|----|
| (1) 全国強化コーチ会議 | 10月 | 東京 |
| (2) ナショナルコーチングスタッフの育成 | | |
| (3) 強化コーチの巡回指導 | | |
| (4) ブロック合宿担当者会議 | 11月 | 東京 |

(2) 飛 込

飛込委員長 末弘 昭人

ナショナルチームは2月下旬に開催されるFINA ワールドカップにおいてオリンピックへの選考基準をクリアし、一人でも多くの選手が第29回オリンピック競技大会(中国・北京)に参加してメダルを獲得することを目指し、ナショナルジュニアチームは9月の世界ジュニア選手権(ドイツ・アーヘン)における入賞を目標として強化を進めていく。

また、選手の強化と同時に審判技術の向上も重要な課題であり、19年度に開催したFINA ジャッジスクールをフォローする事を目的として、FINA TDC メンバーであり昨年のSchoolで講師だったRobin M,N Hood氏(NZL)に再度お願いをし、審判実技を中心としたジャッジクリニックを開講する。

1. オリンピックにおけるメダルの獲得

ワールドカップの成績によってオリンピック代表に決まった選手はシーズンの前半、寺内は19年度に引き続いてFINA ワールドシリーズ(メキシコ・カナダ・中国)で世界のトップクラスの選手との対戦を、それ以外の代表選手はFINA グランプリ大会(カナダ・アメリカ)で北京に向けての実績作りをし、6月からの数度にわたる事前合宿を通じて演技の完成度、安定度の更なる向上を図りたい。

2. 世界ジュニア選手権における入賞

平成19年度下期のジュニア強化合宿及びナショナルジュニア合宿における評価に加え、6月のトライアル大会における結果をもって選手選考を行なう。「拠点特別強化事業」における2008年3月の中国上海合宿や中国グランプリの自費参加、更に4月の日本選手権などの国内外の実践を積み重ねることで世界ジュニア選手権へ向けた強化を図り、8月の国内競技会での調整を経て、大会に臨む計画である。特に今回は若手の台頭、シンクロ競技の新チーム結成等を踏まえて、複数の入賞を狙いたい。

3. 拠点特別強化事業

北京以降のオリンピックを見据えて、ジュニア強化事業においてはバッテリーテストによるセレクションを経た年末のナショナルジュニアとの合同強化合宿の他、19年度に新規導入した「拠点特別強化事業」を継続し、10歳台前半の重要な時期に中国の優れた指導者の一貫指導により、しっかりとした基礎技術を習得することを主眼に置いて数次にわたる定期的、継続的な選手育成を行なう。これにより国内の強化プログラムの整備と基本技術のマニュアル化を目指し、一貫指導体制の確立に取り組んでいきたい。

国際競技会

(イ) FINA グランプリ大会	5月 1日 ~ 4日	カナダ・モントリオール
	5月 8日 ~ 11日	アメリカ・フォートゲイター
(ロ) FINA グランプリ大会	6月13日 ~ 15日	イタリア・ローマ
(ハ) FINA ワールドシリーズ	4月25日 ~ 27日	メキシコ・メキシコシティ
	5月 3日 ~ 4日	*カナダ・モントリオール
	5月31日 ~ 6月1日	中国・南京
(ニ) 世界ジュニア選手権	9月 2日 ~ 6日	ドイツ・アーヘン
(ホ) FINA グランプリ大会	2月	中国・(未定)

*FINA ワールドシリーズ(カナダ)は詳細未定

強化トレーニング

(イ) ナショナルチーム強化合宿		
) 国際競技会国内事前合宿		
・FINA グランプリ事前合宿	4月	1回
・オリンピック事前合宿	6月 ~ 8月	4回
(ロ) ジュニアチーム強化合宿		
) シニア合同合宿	10月	1回
) 国内強化合宿	11月・12月・3月	3回

拠点特別強化事業

) 国内拠点合宿	関東、関西	各2回
) 海外強化合宿	3月	1回

企画、研修及び講習会

(イ) 強化コーチ会議		
-------------	--	--

(ロ) 飛込巡回指導(地方セレクション合宿)

(ハ) 研修会

- ・国際審判員クリニック
- ・審判員研修会
- ・コーチ研修会

(ニ) ブロック代表者会議

(3) 水 球

水球委員長 住谷 栄之資

水球は北京オリンピックには出場できない。平成20年度は、F I N Aワールドリーグアジアオセアニアラウンド(男子5月東京,女子6月天津・中国)において、男子・女子ともに「中国に勝利し、スーパーファイナルへ進出する」ということを第一目標と位置づけている。過去2年間連敗している,そしてオリンピック出場前の中国を破ることは、現在の日本チームにとって極めて重要であり、選手・指導スタッフ,そして水球関係者が一丸となってこの局面を乗り越えていく必要がある。

世界は新しい攻防戦術に急速移行している。オフェンスでは、ポスティングと5メートルシュートの多用,アンブレラを变形してのセット攻撃。ディフェンスはこうした攻撃を防ぐため、多くのヘルププレーが必要となり、結果的に運動量の多い防御が必要となる。また、ゲーム運びも積極的にチャンスからシュートを狙う傾向にある。これに対し日本は、シュート力、防御時のハンドアップ能力(高さ+移動+読み)の向上、等の技術面の底上げ,また、基礎体力の強化により日本が強みとすべき、スピードを活かした独自戦術の構築が必要と考えている。ワールドリーグに向けJ I S Sを拠点として強化を実施していく。

男子代表中心選手の海外派遣は3名枠とし継続する。このメンバーが技術面のみならず精神面での日本チームへの貢献を期待し、サブリッチ新監督,強化スタッフとのコミュニケーションを十分重視したい。

今年度から代表監督をテクニカルディレクター(男子:ゴラン・サブリッチ、女子:木村文明)として、各カテゴリー全体を一括掌握する体制としたが、2010年アジア大会、2012年ロンドンを視野に入れた有望若手選手に対する重点的育成は重要となる。従来までの一貫強化システムの継続推進とともに、本年は、男子・女子 age91年代を欧州・豪州の大会に出場させ経験を積ませる。また、各カテゴリー代表選手の所属チームでの日常トレーニングとの連携を図る必要性を重視し、所属チーム監督とテクニカルディレクター、指導スタッフとの会議を定期的に設営し、強化方針につき、コンセンサスを従来以上にとることとしている。

国内競技会では、12月に中学生(男子・女子)の新たな全国大会を岡山倉敷市の協力のもと開催することとなった。これを含め、各年代での競技会の改革により、将来的な日本水球の強化・普及に資する環境づくりに努めていく。

国際競技会

- (イ) ワールドリーグアジアオセアニア予選ラウンド(女子)5月20日～25日 天津,中国
- (ロ) ワールドリーグスーパーファイナル(男子) 6月16日～22日 ジェノバ、イタリア
- (ハ) ワールドリーグスーパーファイナル(女子) 6月10日～15日 テネリフェ、スペイン
- (ニ) 世界選手権アジア予選(男子) 未定 未定
- (ホ) 世界選手権アジア予選(女子) 未定 未定
- (ヘ) Age91 男子ジュニアLEN国際大会 7月18日～20日 ｽﾊﾟｲﾝ・ﾊﾞﾙﾍﾞﾝ
- (ト) Age91 女子ジュニア豪州国際大会 9月 ｽﾄﾗｲｱ・ﾊﾟｰｽ
- (チ) 世界ジュニアアジア予選(男子) 未定 未定
- (リ) 世界ジュニアアジア予選(女子) 未定 未定

強化トレーニング

- (イ) 海外強化合宿(クロアチア スプリット)
- (ロ) 国際競技会国内事前合宿
- (ハ) ナショナルチーム合宿
- (ニ) ジュニア合宿
- (ホ) 代表男子海外クラブチーム個人派遣

チーム招待・コーチ招聘

- (イ) ゴラン・サブリッチ氏招聘
- (ロ) 海外チーム招聘(スペイン五輪代表男子五輪事前合宿)

企画・研修および講習会

- (イ) 強化コーチ会議
- (ロ) タレント発掘・巡回指導
- (ハ) 研修会
 - (a) コーチ研修会
 - (b) 審判員・指導者合同研修会
 - (c) ジュニア指導者研修会
- (ニ) 国際情報収集
- (ホ) 日本代表ゲーム分析・評価事業
- (ヘ) 育成事業：水球教室の実施，コーチ教本等の見直し
- (ト) 水球競技広報活動(イベント等の検討)

地方競技会の充実支援、審判員の育成

- (イ) 全国水球委員長会議
- (ロ) 審判員講習会
- (ハ) 競技運営勉強会

(4) シンクロ

シンクロ委員長 金子 正子

昨年19年度はオリンピックを目指すA代表候補選手は国内で徹底した体づくり、身体機能、技術の向上を図り度重なる合宿トレーニングで鍛え上げてきた。又、オリンピック後のトップナショナルを目指すナショナルB、Jr代表は海外遠征を含め強化を積む策を講じてきた。12月16日にオリンピック最終選考を行い、9名のオリンピック選手を決定、記者発表を行い正式決定をした。年が替わり1月4日からいよいよ第1次オリンピック代表合宿がJISSでスタート。1月20日からは50mプールでのトレーニングのため富士水泳場で第2次合宿、更に2月10日からはJISSへ戻り合宿が続くなどハードトレーニングが続く。

まずは4月16日から北京のオリンピックプールで開催される世界予選を目指している。この予選を好成績でクリアする事が採点競技ではオリンピック本番での成績に繋がるのは間違いないことなので頑張りたい。1月には日本オリンピック委員会の視察へ同行、更に競泳のプレ大会へも帯同させて頂いて本番さながらの競技場内の視察等を経て、音楽、コスチューム、演技構成と着々と準備が進んでいる段階である。シンクロにとって7度目のオリンピック挑戦となるが最も戦いにくい、難しい大会を迎える。そのプレッシャーこそが勇気を持って戦える力の糧になるよう、選手を引っ張って生きたいと考えている。

又、オリンピックに関わり無く次世代の強化も忘れてはならないが、1月25日から27日に行われた新人選手の登竜門である「13-15オソロ・デュエット」大会には全国から129名の選手が出場、45人のソロ、56組のデュエットが出場し全国のレベルアップを見た。これも一貫指導・バッジテスト導入など強化が根付いてきた感がある。

又、同日合わせて行われた新年度のナショナルB・Jrの顔ぶれも並び新年度への強化体制も着々と進み始めている。オリンピックへ周りの目が向く20年度こそ次への強化をいち早く手抜き無くスタートする事が今年上半期の重要課題であることを忘れてはならない。

国際大会

(イ) ローマオープン	5月30日～6月1日	イタリア・ローマ
(ロ) スイスオープン	7月4日～6日	スイス
(ハ) ジュニア世界選手権	7月11日～13日	ロシア・モスクワ
(ニ) ワールドトロフィー	10月	未定
(ホ) プラハ国際	12月6日～7日	チェコ・プラハ
(ヘ) ドイツオープン	1月23日～25日	ドイツ・ボン

強化トレーニングオリンピック

(イ) 国内合宿	4・5・6・7月	JISS・富士・横浜・新潟
(ロ) オリンピック海外合宿	5・8月	韓国・済州島

- | | | |
|----------------------|----------|--------------|
| (八) 国際競技会派遣国内合宿 | 5・6・7・9月 | J I S S ・ 静岡 |
| (二) 特別強化合宿 | 10・11月 | J I S S |
| (ホ) 全国選抜中央合宿シニア・ジュニア | 12月 | J I S S |
| (へ) 一貫指導英才教育 | | |
| (ト) 全国ブロック強化合宿 | | |

企画・研修・講習会

- (イ) テクニカル委員会
- (ロ) ナショナルコーチ・ジャッジ会議
- (ハ) 全国委員長会議
- (ニ) フォーラム2008年
- (ホ) 全国バッジテスト(競技者育成プログラム)
- (へ) 研修会
 - (a) 全国コーチ・ジャッジキャンプ
 - (b) 審判研修・講習・検定
 - (c) 競技役員研修会
 - (d) ナショナルコーチ研修会

地方競技会の充実と審判員、競技役員の育成

(5) 医・科学委員会

医・科学委員長 野村 照夫

平成20年度は、関係諸委員会と連携して、現場の意見を反映して、競技力向上に関する科学サポートを国内競技会および国際競技会への選手団派遣にともなう合宿等で実施する。また、競技会における救護および国際競技会への選手団派遣に伴う医事管理においては、水泳に関わる安全管理、強化対象選手の健康診断・体力テスト、アンチ・ドーピング活動、ドーピング・コントロールの実施、医事相談活動、調査研究等を実施することで、医事サポートを充実させる。そして、教育・啓発活動においては、第21回日本ドクター会議、第18回日本トレーナー会議の開催等を通して、水泳文化の向上に寄与する。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供を骨子とし、養成講習会の講師派遣等への協力を行う。その他、水泳の医科学に関わる教育・普及活動では、地域の科学サポートの実態把握、ジュニアの競技力向上に関する科学サポートの推進、水泳に関する研究動向の発信、医学生・若手医師のためのスポーツ医学・健康医学セミナー等を実践する。

競技力向上に関する科学サポートの実施

競技会における救護活動による医事サポートの実施

国際競技会への選手団派遣に伴う医事管理

- (イ) アンチ・ドーピング活動
- (ロ) ドーピング・コントロールの実施
- (ハ) 強化対象選手の健康診断・体力テストの実施
- (ニ) 相談活動及び調査研究

教育・啓発活動

- (イ) 第21回日本ドクター会議の開催
- (ロ) 第18回日本トレーナー会議の開催

指導者資格付与制度への協力

その他 水泳の医・科学に関わる教育、普及活動

- (イ) 地域における科学サポートの実態把握
- (ロ) ジュニアの競技力向上に関する科学サポートの推進
- (ハ) 水泳に関する研究動向の発信
- (ニ) 医学生・若手医師のためのスポーツ医学・健康医学セミナーの実施

4. 競技運営事業

(1) 競 技

競技委員長 安部 喜方

平成19年度、競泳は世界競泳2007(千葉県国際総合水泳場)が開催された。この国際大会の競技役員は、全国の加盟団体の競技委員長(19名)が参加して行われた。平成20年度日本選手権は、北京オリンピックの選考会をかねて行われるが、引き続き全国の競技委員長クラスの参加で競技会運営を行う。選手が日ごろの実力を発揮できるように実行委員会を昨年10月に立ち上げ準備に入っている。

また、平成20年度は初開催の2競技会を行う。6月開催のジャパンオープン(長水路)は、世界ユースオリンピック(メキシコ・モンテリ-)の代表選手選考会と北京オリンピック選手団の壮行会をかねて開催される。また、年が明けて1月にグアム(レオパレスリゾート)で、ジュニアパンパシフィック大会を開催する。この大会は、日本の主管で行い本連盟競技委員会が競技運営を行う。

また、水球は、5月に世界ワールドリーグ(アジア・オセアニアラウンド)を東京で開催する。水球にとって実に7年ぶりの国際大会の開催となる。また12月には、岡山で第1回全日本ユース(U15)水球競技選手権大会(桃太郎カップ)を開催する。

競技には、例年にも増して多忙な1年になるが、選手により良い競技会環境の提供と、競技役員と競技会のレベルアップにつながるような大会運営をしていきたい。

(1) 競技運営

- 各種目競技会日程要項作成
- 各種目競技会要項に基づく競技会の実施、運営
- 国際大会の開催

水球	ワールドリーグ(男子)	5月26日～6月1日	東京体育館	東京
競泳	ジュニアパンパシフィック	2009年1月8日～11日	アメリカ	グアム

主要競技会

(競泳)

日本選手権大会兼第29回オリンピック競技大会代表選手選考会

		4月15日～20日	辰巳国際	東京
中大・日大対抗競技大会		5月17日	辰巳国際	東京
早大・慶大対抗競技大会		5月18日	辰巳国際	東京
ジャパンオープン(長水路)		6月6日～8日	辰巳国際	東京
日本実業団競技大会		8月2日～3日	敦賀	福井
全国国公立競技大会		8月8日～9日	福岡西市民	福岡
日本高等学校選手権		8月17日～20日	川口青木	埼玉
全国中学校水泳競技大会		8月21日～23日	長岡	新潟
全国ジュニアオリンピック夏季大会		8月26日～30日	辰巳国際	東京
日本学生選手権		9月5日～7日	辰巳国際	東京
国民体育大会		9月13日～15日	別府青山	大分
日本短水路選手権		2月21日～22日	辰巳国際	東京
全国ジュニアオリンピック春季大会		3月27日～30日	辰巳国際	東京

(飛込)

日本選手権		4月4日～6日	辰巳国際	東京
日本高等学校選手権		8月17日～20日	川口青木	埼玉
全国中学校水泳競技大会		8月21日～23日	長岡	新潟
全国ジュニアオリンピック夏季大会		8月26日～29日	千葉国際	千葉
日本学生選手権		9月5日～7日	敷島公園	群馬
国民体育大会		9月13日～15日	別府青山	大分

(水球)

日本選手権大会		9月5日～7日	尼崎の森	兵庫
全国女子水球		9月5日～7日	尼崎の森	兵庫
日本高等学校選手権		8月17日～20日	大宮公園	埼玉
全国ジュニアオリンピック夏季大会		8月26日～30日	門真	大阪
国民体育大会		9月12日～15日	大分商業高	大分
日本学生選手権		9月18日～21日	相模原	神奈川
全日本U-15(U15)桃太郎カップ		12月24日～27日	児島地区	岡山
全国ジュニアオリンピック春季大会		3月27日～30日	千葉国際	千葉

(シンクロ)

日本選手権大会		5月2日～5日	辰巳国際	東京
チャレンジカップ		8月6日～9日	辰巳国際	東京
全国ジュニアオリンピック夏季大会		8月27日～30日	児島地区	岡山
国民体育大会		9月11日	別府青山	大分

13～15ソロ・デュエット	1月24日	辰巳国際	東京
ナショナルトライアル	1月25日	辰巳国際	東京
(その他)			
OWSジャパンオープン館山	7月20日	館山	千葉
館山OWS	7月21日	館山	千葉
日本マスターズ大会	7月18日～21日	辰巳国際	東京
日本泳法大会	8月23日～24日	笠松運動	茨城
日本泳法研究会		未定	和歌山
競技役員の研修会・講習会			
ブロック			
各地域			
日本選手権・日本短水路選手権実技研修			
競技委員長会議の開催			
選手登録			
競技役員登録(昇格基準の整理・登録のデータ化)			
競技運営企画・立案			
記録の公認・管理			
(イ)日本記録の公認及び高校・中学・学童新記録の公認			
(ロ)FINAへの世界記録申請			
(ハ)ホームページの記録管理			

(2) 学 生

学生委員長 山重 美登士

本委員会は、学生競技を統括し、学生相互の融和を図り、厳正な競技精神を養成し学生競技の向上発展に資するため引き続き以下の事業を行う。

1. 日本学生選手権大会(競泳競技・飛込競技・水球競技)の開催
2. 全国国公立大学選手権大会(競泳競技)の開催

(3) ジュニア

ジュニア委員長 鈴木 浩二

競泳競技の底辺拡大に重点を置いた事業計画を確立し、質の向上とより良い環境づくりを目的に事業計画を進める。また各競技において31回大会以降の新たな取り組み検討し実施して行く。

30周年記念誌の作成

JOC全国ジュニアオリンピック夏季大会

- ◆ 競泳競技・飛込競技・水球競技・シンクロ競技の開催

JOC全国ジュニアオリンピック春季大会

◆ 競泳競技・水球競技の開催

水泳資格表の作成

5. 指導者養成事業

指導者養成事業担当 設楽 義信

指導者養成3委員会の共通理解の下で、指導者養成事業も順調に推移している。地域指導者委員会は、情熱ある指導者の育成を目指して来年度全国2会場にて上級指導者養成事業を計画している。また、全国地域指導者委員長会議を開催し、事業執行に伴う問題・要請等、意見交換を図り次年度の計画実施に反映させる。

競技力向上コーチ委員会は、競技力向上のための指導者養成を目的として、養成講習会・研修会を実施。特に研修会事業を毎年全国12会場(上級含む)で開催、講師には引き続きトップアスリートを育成したコーチを招聘して実施する。

水泳教師委員会は、(社)日本スイミングクラブ協会(SC協)との共同事業として、養成および登録・更新研修会を実施し、2年後の完全一本化を目指す。また、両団体で実施にあたって予測できる課題について、合同委員会を開催して対処し、事業推進を図る。

(1) 競技力向上コーチ委員会

競技力向上コーチ委員長 設楽 義信

- コーチ資格審査(上級昇格 年2回)の実施
- コーチ資格の新規登録・更新登録事業
- コーチ研修会事業(コーチ10会場・上級コーチ2会場)
- コーチ新規養成事業の推進
- ホームページの充実

(2) 地域指導者委員会

地域指導者委員長 宮本 憲二

- 基礎水泳指導員に関する事業
 - (a) 養成事業に係わる特例・指導・助言
 - (b) 資格の新規登録、更新登録業務
- スポーツ指導員新規養成事業の推進
 - (a) 水泳指導員の養成(加盟団体への協力・助言、資格取得の督励)
 - (b) 水泳上級指導員の養成(日水連が主催・主管)
- スポーツ指導員有資格者の更新・登録業務
- 免除適応校専門科目検定試験の実施

マスター称号上級指導員義務研修会の開催
全国地域指導者（普及）委員長会議の開催
加盟団体各地区委員長会議の開催
研究、編纂事業
ホームページの充実

(3) 水泳教師委員会

水泳教師委員長代行 泉 正文

水泳教師新規養成事業の推進

(日本スイミングクラブ協会と合同推進)

適応コース講習検定会の実施 6校 (日本水泳連盟が担当)

- ・大阪社会体育専門学校
- ・東京スポーツレクリエーション専門学校
- ・トライデント・スポーツ健康科学専門学校
- ・東京 YMCA 社会体育専門学校
- ・東京リゾート＆スポーツ専門学校
- ・アクト情報ビジネス専門学校 (予定)

新規養成コース講習検定会の実施

(日本スイミングクラブ協会が担当)

水泳教師資格の新規登録・更新登録事業

(日本スイミングクラブ協会と合同推進)

水泳教師資格更新研修会事業

(日本スイミングクラブ協会と合同推進)

水泳教師在籍施設証明事業の推進

(日本スイミングクラブ協会と合同推進)

(a) 認定施設の登録・更新

(b) 経営セミナーの実施

6 . 国際関係事業

国際関係事業担当 佐野 和夫

- (1) 国際水泳連盟 (F I N A) 及びアジア水泳連盟 (A A S F) 関係業務
- (2) 諸外国との交流に関する業務 (競技者資格証明の発行等を含む)
- (3) 国際大会開催に関する諸業務

7 . 生涯スポーツ・普及事業

生涯スポーツ・普及事業担当 山本 浩

当委員会の事業は、広範囲でかつ多面的要素があり、より以上に根気と理解度を高め

ることが必要であり、更に究極の目的である強化に繋がる為の活動および体力・健康増進の一端を担うべき活動を推進する。

平成20年度個々の事業は、下記に記す。

日本泳法委員会では、日本泳法が生涯スポーツとして広まりつつあるが、まだまだ知られていない部分が多いため、歴史や泳法を紹介する簡単な解説書の作成、実演映画のDVD化などを進めて行きたい。

OWS委員会では、自然環境の中で年齢差なく安全に泳ぐための指導・啓蒙を目的としたクリニックを継続し、更に国内における競技規則、競技運営の手引き、合わせて競技役員の手引きの完成を目指す。一方で競技会場あるいは、練習会場を競艇場を使用することを試験的に実施していく。

泳力検定会では、受験者の拡大を狙い全県の実施を目指し、中央検定会を3県～5県実施する。トップ選手の模範泳法等も取り入れ水泳に興味を持たせる活動も増やしていく計画である。

日本スポーツマスターズでは、類似する大会が複数あり、カテゴリーの違いはあるが出場する側からは戸惑いもある。今後はシニア層の国体として位置付け、全県参加を促し地方体協への強力なアピールも行っていく。合わせて、地域スポーツクラブとの関わりで、日本泳法・泳力検定会を育成の一環としての取り組むことは、有効な普及対策として意味があるので支援をしていきたい。

(1)日本泳法委員会 委員長 八木沼 正彦

第53回日本泳法大会

平成20年8月23日(土)24日(日)

茨城県営笠松運動公園屋内水泳プール(茨城県ひたちなか市)

茨城県水戸市は水府流発祥の地であり、市内を流れる那珂川がその源です。

游士、練士、教士、範士の認定

58回日本泳法研究会

平成21年3月21日(土)研究発表、

22日(日)実技発表和歌山市民温水プール

課題「岩倉流」

課題流派の岩倉流は紀州3派の一つとして和歌山市内を流れる紀ノ川で始まったのが390年前、その周年事業の一環として行われます。

資格取得者の技術向上を目的とした研修・競技会の開催

日本泳法の保存・普及を目的として資格の認定を行っているが、一旦資格を取得後、次の資格に挑戦する間に指導者不足による修練がなかなか進まないという現状がある。次の受験資格年が来るまでの期間、何らかの形で参加したいという希望が多いため、泳法を競う会を開く予定。当面実験期間として、時間の余裕のある研究会の

際、游士の部から実施していく。

(2) OWS 委員会

委員長 鷲見 全弘

競技会運営（安全重視の競技会運営）

- ・ OWS ジャパンオープン2008館山 / 第12回館山オープンウォータースイムレース
平成20年7月20日（日）・21日（月）
千葉県館山市北条海岸
- ・ 湘南オープンウォータースイミング2008（笹川 S 財団主催）運営協力
- ・ 加盟団体が主催する OWS 大会の運営協力及び運営協力基準の策定
- ・ 競艇場を使用した練習会（又は記録会）の試験的实施
普及発展（競技人口の拡大）
- ・ OWS スイムクリニックの拡充
- ・ 競技規則・競技役員の手引き・競技運営の手引きの策定（21年度適用）
競技力向上（実戦経験を通じた強化の推進）
- ・ 国際大会への選手派遣
- ・ ジュニアパンパシフィック大会出場を前提に、ジュニア選手の発掘・強化

(3) 生涯スポーツ・普及委員会

委員長 山本 浩

日本スポーツマスターズ2008

平成20年9月20日（土）・21日（日）

高知県高知市東部総合運動場プール

中央泳力検定会の実施

3県～5県予定

8. 総務

総務事業担当 泉 正文

広報委員会の月刊水泳発行事業については、記事内容の充実と定期発刊を重点課題として紙面を作成し、購読部数を7000部に増加させる。また、もうひとつの主要事業であるホームページの活用促進については、時代のニーズに合致したページ構成を工夫し、アクセス増につなげたい。

施設用具委員会はプール公認の審査体制を充実させ、審査業務の円滑化を図る。

情報システム委員会の平成20年度は、Web版登録方式の完全実施を目指し、各加盟団体と密接に連絡を取り、登録料徴収を含め、早期定着・安定を図る。

総務委員会は、各委員会との連絡調整を密にし、寄附行為の変更をはじめ、諸規定の見直しを継続して実施する。また、公認・推薦等の収益事業並びに免税基金事業を推進し、財務体制の強化を図る。また、適切な予算・決算管理と事業執行をサポートし、北京オリンピックでの好成績につなげるための諸事業に積極的に取り組む。

(1) 広報委員会

広報委員長 坂元 要

月刊水泳の定期発刊と内容の充実
ホームページの充実と活用促進
広報活動

(2) 施設用具委員会

施設用具委員長 岡本 堯生

プール公認規則等の整備と実施
プール施設の公認
用器具の公認、推薦
プール施設及び用器具の研究、開発

(3) 情報システム委員会

情報システム委員長 須永 孝

Web版の競技者登録及び大会エントリーシステムの普及と改善
・ ブロック大会、全国大会エントリーでの活用
・ 中体連主催大会エントリーでの活用
リザルトシステムの普及と改善
・ S E I K Oリザルトとシチズンリザルトとのデータ連携
記録ランキングシステムの連携と改善

(4) 総務委員会

総務委員長 泉 正文

事業計画の作成
寄附行為及び諸規定の整備、規定集の発行
公認・推薦等、収益事業の推進と統括
有功章の表彰
各種登録及び更新業務
オフィシャルサプライヤー制度の推進
各種会議の開催
各種の渉外業務
事務局の管理
地域会議の開催

9 . 財務一般会計

財務担当 山重 美登士

予算の作成と執行管理

中長期財務対策

10. 特別委員会

(1) 財務委員会

賛助会員登録の推進
免税募金業務

財務委員長 堀 正美

(2) 競技者資格審査委員会

競技者資格の審査

競技者資格審査委員長 青木 剛

(3) 選手選考委員会

国際競技会派遣日本代表選手団の選考

選手選考委員長 林 利博

(4) 指導者養成委員会

指導者養成制度の確立と資格認定審査

指導者養成委員長 泉 正文

(5) アンチ・ドーピング委員会

アンチ・ドーピング活動の計画と推進

アンチ・ドーピング委員長 佐野 和夫

(6) スポーツ環境委員会

スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進

スポーツ環境委員長 佐野 和夫

(7) 倫理委員会

倫理、社会規範意識の啓発と指導

倫理委員長 青木 剛